

令和 2 年度シラバス（家庭科）

教科（科目）	家庭(家庭総合)	単位数	2 単位	学年 (コース)	1 学年
使用教科書	大修館書店『新家庭総合 主体的に人生をつくる』				
副教材等	教育図書『家庭科 5 5 資料集』				

1 学習目標

人の一生と家族、高齢者の生活と福祉、子供の発達と保育、衣生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

現代の生活を見つめ、よりよくするために主体的にかかわる学習を通して、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度の育成を目指す。
講義だけでなく実習（調査・研究・観察等も含む）も多く取り入れ、実践的、体験的な学習を行う。実習では班を編成して相互が協力し合い、火気・用具・材料などの取り扱いに注意し、事故の発生や怪我をしないようにする。

3 学習計画

学期	月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学 期	4月	人 生 を み つめる	保 育 人 形	ア． 人 の 一 生 と 発 達 課 題 イ． 家 族 ・ 家 庭 と 社 会 ウ． 生 活 設 計	3 0	ノート等の提出 授業の取り組み 実習の取り組み 定期考査
	5月	共 生 社 会 の 一 員 と し て 生 き る		ア． 共 生 社 会 に つ い て イ． 地 域 社 会 で の 活 動		
	6月	子 ど も を 育 て る		ア． 親 の 役 割 と 保 育 イ． 子 ど も の 発 達 ウ． 子 ど も の 福 祉		
	7月	1 学 期 期 末 考 査				
	9月	高 齢 者 を 生 き る		ア． 高 齢 者 の 心 身 の 特 徴 と 生 活 イ． 高 齢 者 の 福 祉 ウ． 高 齢 者 の 介 護 の 基 礎		
10月	衣 生 活 を つ く る	ア． 被 服 の 機 能 イ． 被 服 材 料				
2 学 期 中 間 考 査						
11月			ウ． 衣 文 化 の 成 り 立 ち エ． 被 服 管 理 【実習】 被服製作、基礎縫い、エプロン製作			
12月						

学 期	3 月	人 生 を 見 つ め る		ア．人の一生と発達課題 イ．家族・家庭と社会 ウ．生活設計		授業の取り組み 定期考査 作品提出
	2 月	共生社会 の一 員 と して 生 き る		ア．共生社会について イ．地域社会での活動		
	学年末考査→作品評価					
	3 月		D V D		1 5	

計70時間（50分授業）

4 課題・提出物等

- ・ワークシートや学習ノートは授業時間終了時や单元ごとなどに点検し、評価する。
- ・夏休みや冬休みには学習したことを家庭で実践する課題（ホームプロジェクト）やレポートなどの宿題を別途指示します。
- ・課題や作品は期日までに完成させ、必ず提出する。課題の未提出の減点は大きい

5 評価規準と評価方法

※評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ

①授業の取組（授業態度・発表や討論の様子・学習活動への参加状況等）

②提出物などの内容

③月例小テスト

④定期テスト

①から④を総合的に判断し、評価します。

6 担当者からの一言

- ・移動教室の授業が多いので、持ち物（調理実習では三角巾・エプロンが必要）や内容の連絡を確認すること。
- ・特に実習の遅刻や欠席はしないようにすること。班員に迷惑をかけることになる。
- ・予習は必要なし、授業集中で授業を受けること。
- ・家庭科の授業規則が守られない場合は、評価の大きな減点要因になる。

令和 2 年度シラバス（家庭科）

教科（科目）	家庭(家庭総合)	単位数	2 単位	学年 (コース)	2 学年
使用教科書	大修館書店『家庭総合 豊かな生活をともにつくる』				
副教材等	教育図書 『データ&グラフ 生活ガイドブック 2018』				

1 学習目標

食生活、住生活、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

現代の生活を見つめ、よりよくするために主体的にかかわる学習を通して、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度の育成を目指す。

講義だけでなく実習（調査・研究・観察等も含む）も多く取り入れ、実践的、体験的な学習を行う。実習では班を編成して相互が協力し合い、火気・用具・材料などの取り扱いに注意し、事故の発生や怪我をしないようにする。

3 学習計画

学期	月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 学 期	4月	食生活を営む	D V D	ア．調理の基本	30	ノート等の提出 授業の取り組み 定期考査
	5月			イ．人間と食べ物		
	6月			ウ．栄養素と食事 炭水化物 たんぱく質 脂質		
	7月			1 学期期末考査		
			無機質			
2 学 期	9月		D V D	ビタミン その他の食品		ノート等の提出 授業の取り組み
	10月					
		住生活をつくる	ビデオ D V D	ア．住居の機能 イ．住空間の計画		ノート等の提出 授業の取り組み
		（ 2 学期中間考査 ）				
	11月			ウ．住空間の整備		ノート等の提出 授業の取り組み
	12月	経済生活を主体的		ア．消費行動の意思決定 イ．家庭の経済生活		

		月	につくる		【実習①】、【実習②】	学番 1 8	新潟県立白根高等学校 実習の取り組み 定期考査
			2 学期期 末 考 査				
3 期	冬 休 み	経 済 生 活 を 主 体 的 に つ く る		ホームプロジェクト		1 0	ホームプロジェクトの提出 ノート等の提出 授業の取り組み 定期考査
	1 月			ウ．消費者の権利と責任 エ．消費行動と資源・環境 【実習③】			
	学 年 末 考 査						
			D V D				

計70時間（50分授業）

4 課題・提出物等

- ・ワークシートや学習ノートは授業時間終了時や单元ごとなどに点検し、評価する。
- ・課題や作品は期日までに完成させ、必ず提出する。課題の未提出の減点は大きい

5 評価規準と評価方法

※評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ

- ①授業の取組（授業態度・発表や討論の様子・学習活動への参加状況等）
 - ②提出物などの内容
 - ③定期テスト
- ①から③を総合的に判断し、評価します。

6 担当者からの一言

- ・移動教室の授業が多いので、持ち物（調理実習では三角巾・エプロンが必要）や内容の連絡を確認すること。
- ・特に実習の遅刻や欠席はしないようにすること。班員に迷惑をかけることになる。
- ・予習は必要なし、授業集中で授業を受けること。
- ・家庭科の授業規則が守られない場合は、評価の大きな減点要因になる。